

第76回国民体育大会（2021年度三重国体）選手選考基準（一部追記）

2021.6.8 一般財団法人大分陸上競技協会

はじめに

令和3年7月4日（日）の「第75回国体標準記録チャレンジ記録会」に怪我や病気（新型コロナウイルス感染症の影響を含む）より出場できない少年選手に対しての救済措置は行わない。県外在住者に関しては、下記2.（3）を参照のこと。

選手選考に関しては、公平で納得性の高い選考を行う。そのために競技会が中止になったことや実施数や強化選手の出場回数が少ない種目（少年B男女100m・少年A男女300m・少年A男女300mH・少共男子110mH・少年B女子100mH・少年B男女砲丸投・少年A女子3000m・少年B男子3000m）についてのみ、令和3年7月11日（日）に三重国体強化記録会を行い、下記の派遣標準記録突破期に加えて選手を選考するものとする。

最終的に三重国体の大分県代表選手29名は、令和3年7月11日（日）の三重国体強化記録会后に決定し、少年選手は該当校の顧問、成年選手は所属先の監督を通じて通知することとする。

1. 国民体育大会代表選手数とエントリーについて

- （1）国民体育大会の陸上競技大分県代表選手数は男子19名・女子19名以内の男女29名以内である。
- （2）成年女子800m・走高跳・棒高跳は少年女子Aからもエントリーできる。
- （3）男女混合マイルのチーム編成は男女2名ずつとし、男女とも少年ABから各1名、残りの男女は全てのカテゴリーを対象に選出できる。
- （4）成年少年男女4×100mRのチーム編成は、成年、少年A、少年Bの選手を各1名と、残りは全てのカテゴリーを対象に選出できる。

2. 派遣標準記録突破期間について

- （1）第76回国民体育大会（三重国体）より従来の日本陸上競技選手権、インカレ、インターハイで実施しない種目が多数実施されるが、2021年7月4日（日）国体標準記録チャレンジ記録会までにそのような種目が実施される大会が少ないことを考慮して、実施種目の全ての種目において派遣標準記録は2020年（令和2年）7月から2021年（令和3年）7月4日（日）までを派遣標準記録突破期間とする。
- （2）少年A男女300m・少年A男女300mH・少共男子110mH・少年B女子100mH・少年B男女砲丸投・少年A女子3000m・少年B男子3000mは令和3年7月11日（日）までを派遣標準記録突破記録とする。
- （3）日本陸連の指導により、県外在住者で県を跨ぐ出場制限等のために予選会に出場できなかった場合は、上記（1）の2020年7月から2021年7月4日（日）までの各公認大会の記録等を参考に選考する。

3. 選手選考は、次の（1）～（6）の内容で選手を選考する。

- （1）派遣標準記録A突破者で全国で戦う資質を有する選手。
- （2）派遣標準記録B突破者で全国で戦う資質を有する選手。成年種目はB標準記録を設定しない種目がある。

- (3) 成年少年共通女子4×100mRは、近年の国体において入賞した実績があり、第76回国民体育大会（三重国体）においてもリレーチームを編成し、出場すれば得点の可能性が他種目より高くなることを見込めるため、優先的に該当選手を選考する。ただし、該当選手が少年選手の場合、個人種目で派遣標準記録B程度の記録を有していること、成年選手は11秒台の記録を有していることを前提とする。
- (4) 成年男女300mは派遣標準記録を突破している選手がいない場合、男女200m及び400mで日本陸上競技選手権入賞者がいた場合は、最上位の選手を選考する。
- (5) 次の成年種目は、過去の国体でのエントリー選手数が少ない傾向があり、出場すれば他種目より得点の可能性が高くなることを見込めるため、派遣標準記録Bを突破すれば選手を選考する。
 - ①成年男子5000m ②成年女子800m ③成年女子5000m ④成年女子3000mSC
- (6) 派遣標準記録ABを突破していない選手（少年・成年）で全国で戦う資質を有し、同年ランキング上位の選手を選考する。

4. 選手選考の際、次のようなことを考慮する。

- (1) 2020年の記録でも2021年のランキングを活用して選手選考を行うが、著しく実施する大会が少なかった種目については2020年度ランキングも併せて活用する。
- (2) 少年B種目は、高校1年生ランキング・中学ランキングを参考に選手選考を行う。
- (3) 男女少年A300mHは400mHの公認記録も選手選考の参考記録とし、同年ランキングを活用する。
- (4) 同一少年種目で派遣標準記録を複数の選手が突破している場合、直接対決の結果を参考に選手選考を行う。

5. その他

- (1) 選考された選手が、怪我や**病気（新型コロナウイルス感染症の影響を含む）**で長期的に練習を休養して国体出場に向けての準備が調わない場合や、メディカルチームのメディカルチェックによりドクターの診断で出場に際して前向きな見解が得られない場合は選手を変更する場合がある。
- (2) 怪我や病気など練習や競技に支障をきたす状況（3日以上通常練習ができない等）になった場合は、国体監督に必ず連絡すること。